



ふらり らいふらりい

～図書室にはこんな本があります～



No. 160

一部の資料に、



こんなシールが貼ってあるのをご存じですか？

これは「複製禁止シール」といって、このシールの貼ってある資料はコピーすることができません。

コピーを禁止している理由は主に以下の通りです。

- ① 資料の紙そのものが激しく傷んでいて、コピー機を使用することによってダメージを与えてしまう。
- ② 合本してある雑誌は本をコピー機に押しつけることで綴じている部分に力が加わって合本が壊れてしまうことがある。

当館の資料の多くは紙の質が悪い時期に刊行されたもので、特に昭和20年前後のものは紙質だけでなく製本も良くありません。

また雑誌の合本は、それぞれの散逸を防ぐとともに、古書については劣化している紙と製本を修復するという意味を兼ねて行っています。

図書室の資料はほとんどが予備がありません。貴重な資料を多くの方に末永く利用していただくためにも、取り扱いに注意していただくようご協力をお願いします。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

上野動物園の猛獣処分

今から70年前、昭和18年(1943)9月、東京の上野動物園で動物の慰霊祭が行われました。

大正12年(1923)9月1日の関東大震災の際、動物園の猛獣が逃げ出したという噂が流れたり、昭和11年(1936)には上野動物園から黒ヒョウが逃げ出すという事件がおきました。そこで、空襲の際に、動物園などの猛獣が市街へ逃げ出すことが危険視されていました。

昭和16年8月、軍からの要請を受けて、非常時における動物園の対応について「動物園非常処置要綱」を作成しました。要綱では、飼育動物を危険度に応じて4段階に分類し、危険の規模や度合いに応じた猛獣の処分が定められました。原則としては薬殺、その余裕のないときは銃殺するとし、1453頭の動物がリストアップされました。

昭和18年8月16日、東京都長官から要綱をもとに、猛獣を1か月以内に処分する内容の命令があり、上野動物園では翌日から処分が開始されました。銃殺はその音が世間に不安を与えるため禁止され、ほとんどが薬殺されました。ライオン、ヒョウ、ホッキョクグマをはじめ、14種27頭の動物が姿を消し、9月4日には処分された猛獣の慰霊祭が行われました。

慰霊祭の会場のすぐ側のゾウ舎では、黒白の幕で目隠しされている中で、インドゾウのトンキーとワンリーがまだ生きていました。ゾウも他の動物と同じように薬殺しようとしたが、毒入りの餌を食べず、注射しようとしてもゾウの皮が厚く、注射針が折れてしまうため、餓死させる方法が選ばれました。花子は絶食開始から18日目の9月11日に、トンキーは絶食から30日目の9月23日に死亡しました。

猛獣処分は東京ばかりではなく各地の動物園でも行われました。

◎参考文献:「昭和 二万日の全記録 6」(210.7/Ko19/6)開架

「上野動物園百年史」(480/U45)閉架書庫

「動物園の昭和史」(480/A83)閉架書庫

資料公開コーナーのお知らせ

9月3日から10月27日まで、1階ロビーにて「昭和16年の大運動会(厚生体育大会)」と題し、写真資料を紹介していますので、ぜひご覧ください。

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 160

2013年9月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1